



米国穀物レポート コーン・大豆

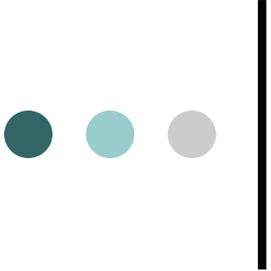
2015年10月13日
日本テクニカルアナリスト協会
検定アナリストCFTe
玉川博一

10月発表USDA需給報告
概要と分析

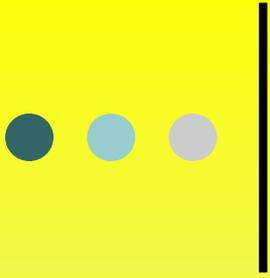
出所: 米国農務省

 岡安商事株式会社

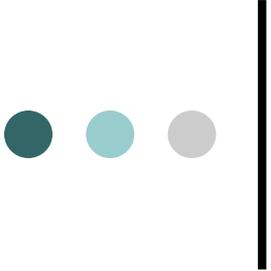




このレポートは投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。先物取引は大きなリスクを被る恐れがあり、すべての投資家に適切な取引ではありません。また、銘柄の選択および投資の最終判断およびその責任はお客様自身でなさるようお願い致します。このレポートは信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、岡安商事(株)および執筆者は、この正確性、完全性、適時性に関する責任を負いません。このレポートに示した意見は、レポートの作成日現在の意見を示すものです。チャートラインなどには、執筆者の主観が入っている場合があります。執筆者の報酬は、このレポートの推奨や見方によって、現在、過去、未来にわたって一切影響を受けません。商品先物取引は元本が保証されているものではなく、短期間で大きな利益を得る可能性もありますが、投下資金の数十倍以上の額を取引する証拠金取引であるため、相場の変動により投下資金以上の損失が生じることもあります。お取引にあたっては充分にご検討下さい。当社ディスクローズ資料は当社本支店または日本商品先物取引協会でご覧いただけます。



とうもろこし (Corn)



10/9日USDA発表

2015／16年度米国コーン

作付面積	: 8838万エーカー	(8890万エーカー)
収穫面積	: 8066万エーカー	(8110万エーカー)
単 収	: 168.0Bu	(167.5Bu)
期首在庫	: 17億3100万Bu	(17億3200万Bu)
生 産	: 135億5500万Bu	(135億8500万Bu)
輸 入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計	: 153億1600万Bu	(153億4700万Bu)
飼料用	: 52億7500万Bu	(52億7500万万Bu)
食品・種・工業用	: 66億3000万Bu	(66億3000万Bu)
内エタノール	: 52億5000万Bu	(52億5000万Bu)
輸 出	: 18億5000万Bu	(18億5000万Bu)
消費合計	: 137億5500万Bu	(137億5500万万Bu)
期末在庫	: 15億6100万Bu	(15億9200万Bu)
在庫／消費率	: 11.3%	(11.6%)

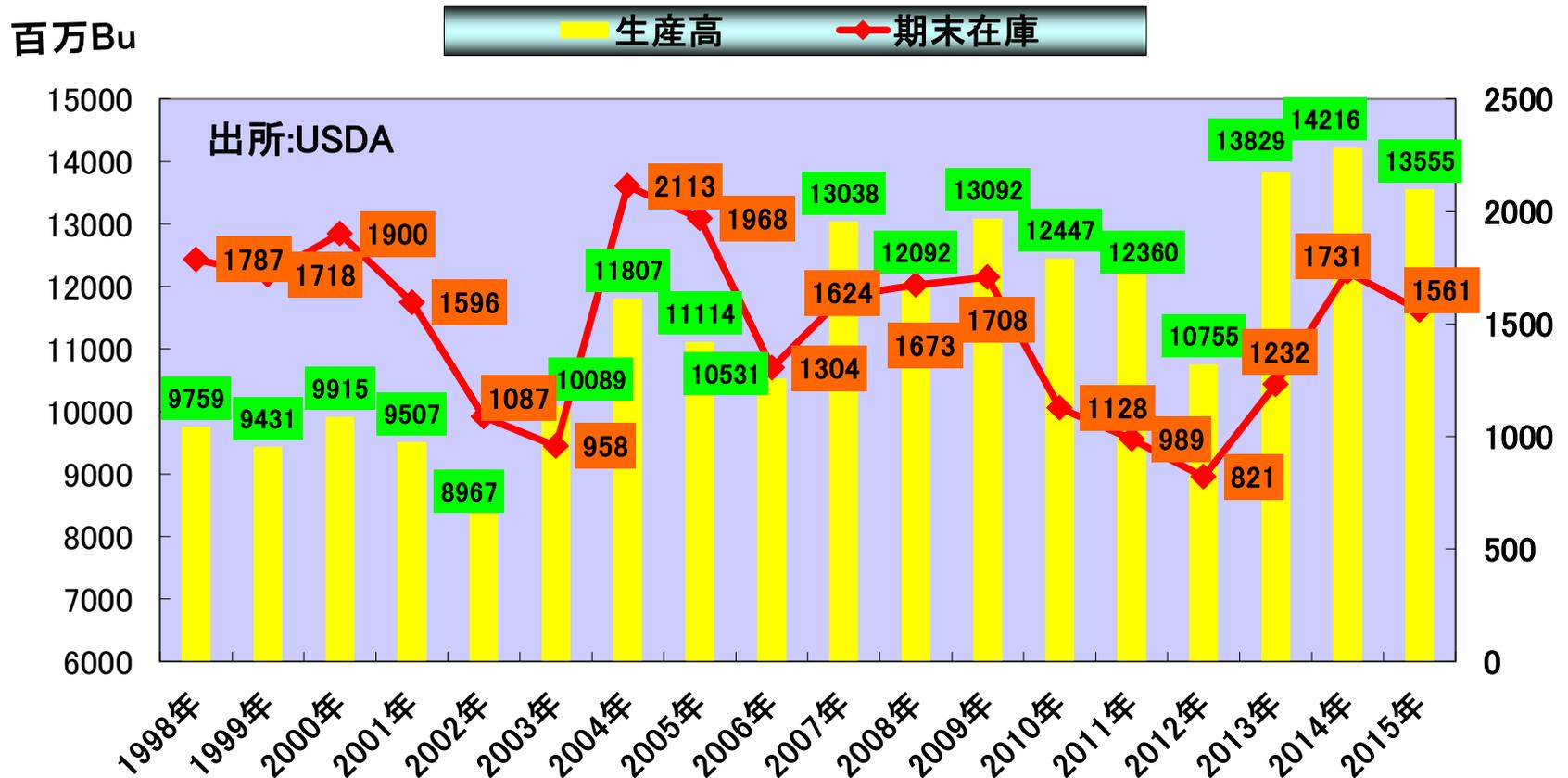


米国コーン生産高は135億5500万Buと 3000万Buの下方修正。

- イールドを前月から0.5Bu引き上げ168.0Buとしましたが、作付面積を50万エーカー、収穫面積を40万エーカーの引き下げを受けて生産高は、135.55億Buに3000万Bu下方修正されました。予想平均135.04(ロイター)を上回りました。
- 旧穀米国コーン需給は細かく微調整、旧穀期末在庫を17.31億Bu100万Buの下方修正、新穀の需要面の数字はいじらず。

2015/16年期末在庫は、15億6100万Bu と3000万Buの下方修正

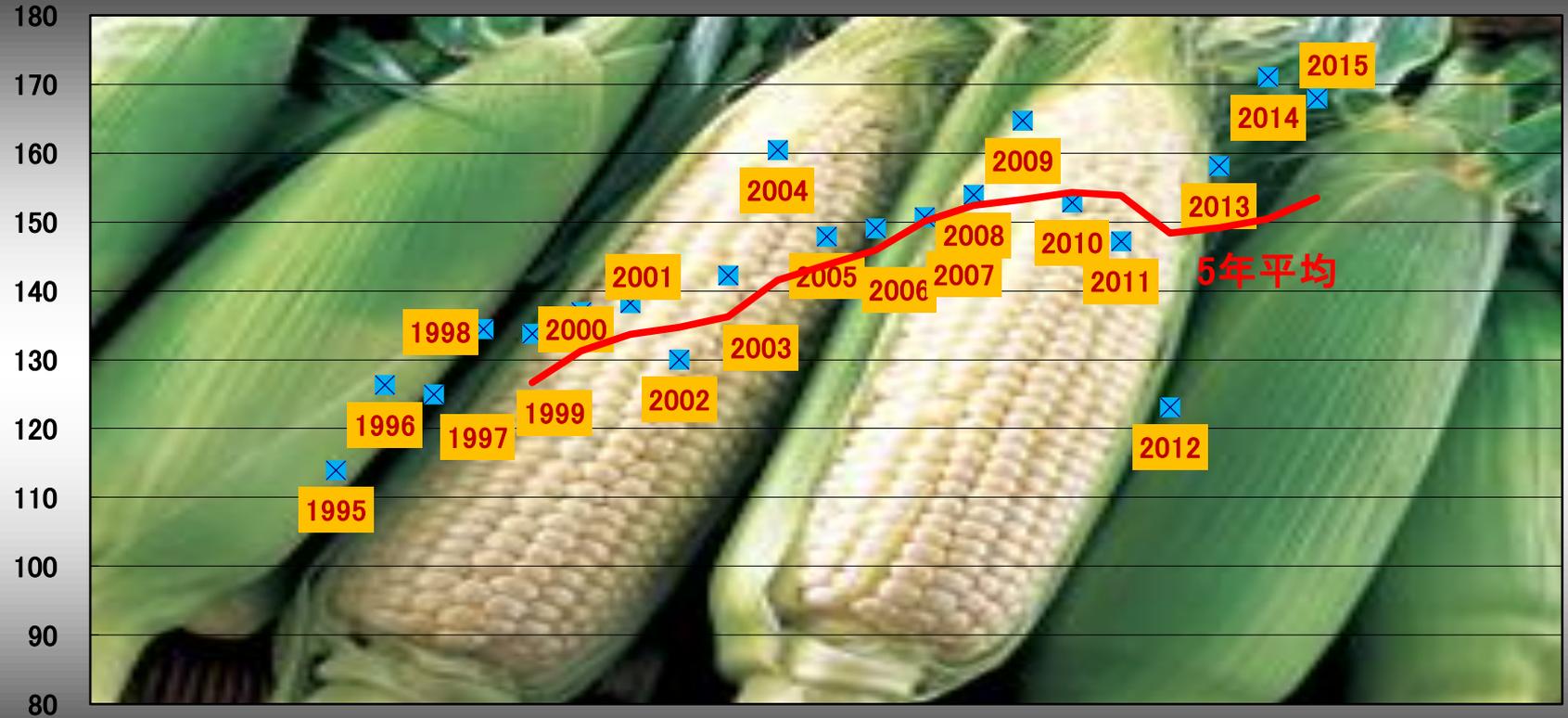
米国コーン生産高と期末在庫



コーンイールド推移

コーン単収推移過去20年

単位Bu/1エーカー



コーン主要生産州イールド /1エーカーあたり

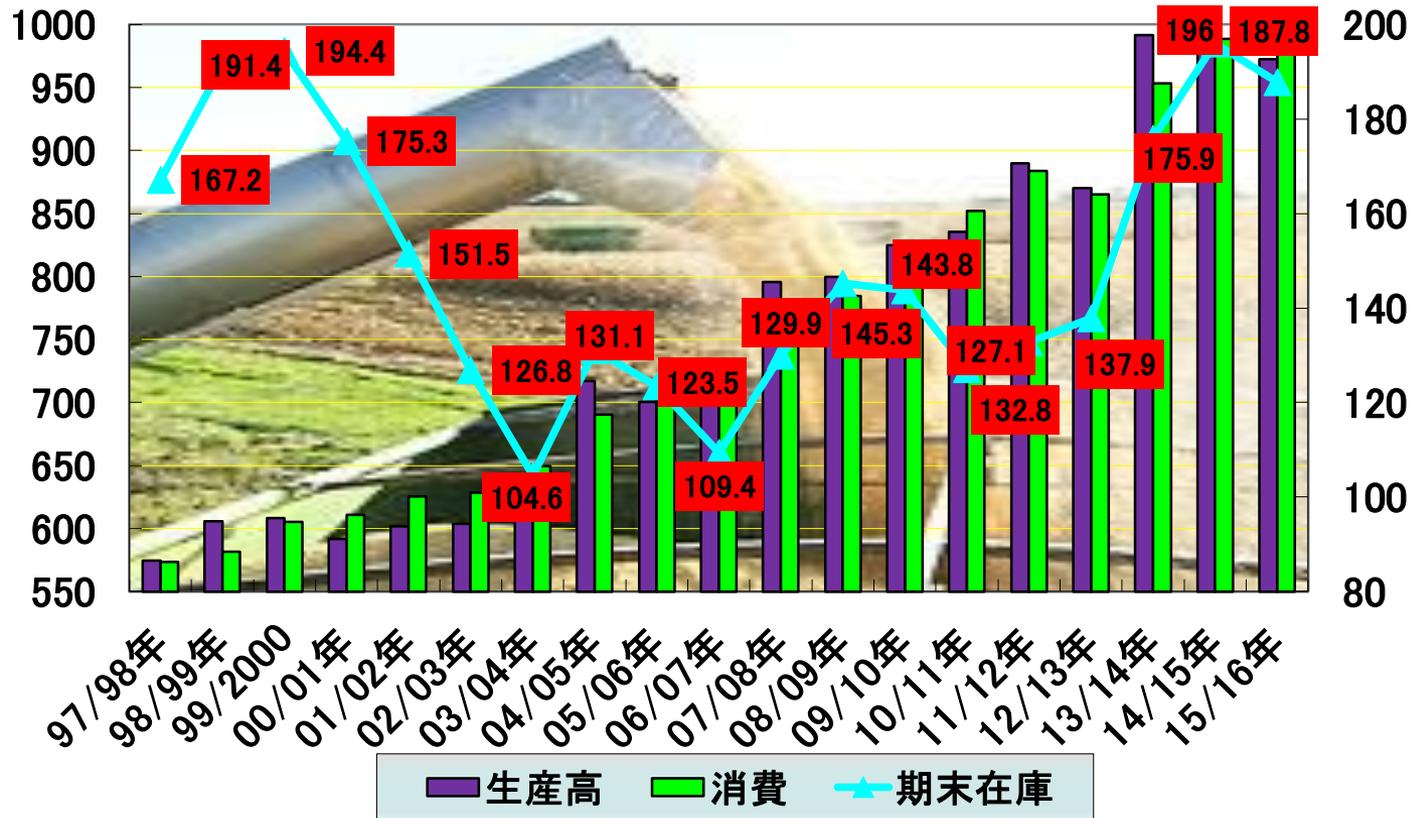
- アイオワ 183Bu(前月181Bu、前年178Bu)
- イリノイ 170Bu(同173Bu、200Bu)
- インディアナ 156Bu(同156Bu、188Bu)
- ミネソタ 184Bu(同183Bu、156Bu)
- ネブラスカ 184Bu(同184Bu、179Bu)

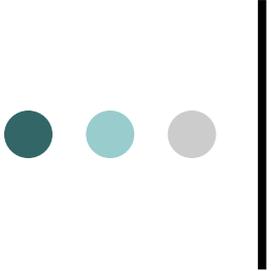
※()内、左前月見通し、右前年

2015/16年世界期末在庫は1億8783万トンと-185万トンの下方修正、予想1億8920万トンを下回る。

世界コーン需給

単位:百万トン Date:USDA



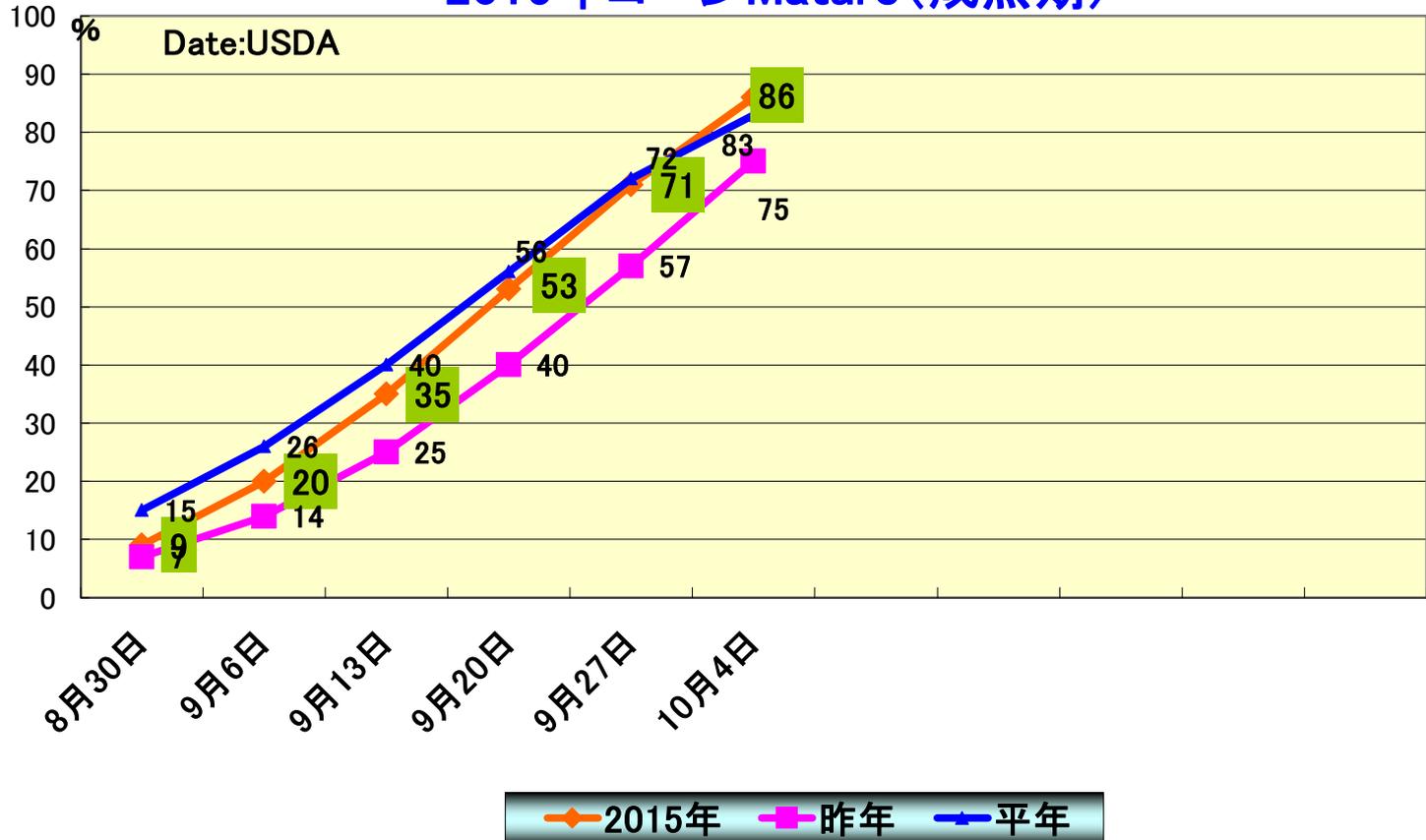


世界コーン需給

- 2014/15年度世界コーン期末在庫は、ブラジル増産にも関わらず、消費増で1.96億トンに120万トンの下方修正、予想平均の1.969億トンを下回りました。
- 2015/16年度世界需給は、世界生産高が9.726億トンと549万トンの下方修正となりました。ブラジルが旧穀新穀とも+100万トン引き上げられましたが、アルゼンチンが-100万トン(2500万→2400万トン)、エチオピア-100万トン(700万→600万トン)、ウクライナ-200万トン(2700万→2500万トン)、他インド生産高やフィリピン生産高などアジア諸国も引き下げられました。2015/16年世界コーン期末在庫は1.8783億トンに下方修正し、予想平均の1.892億トンを下回りました。

10/4時点成熟率86%とほぼ成熟。

2015年コーンMature (成熟期)

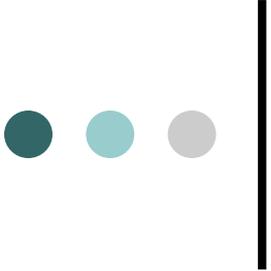


コーン収穫状況

10/4時点、27%と収穫日和続く。

2015年コーン収穫率

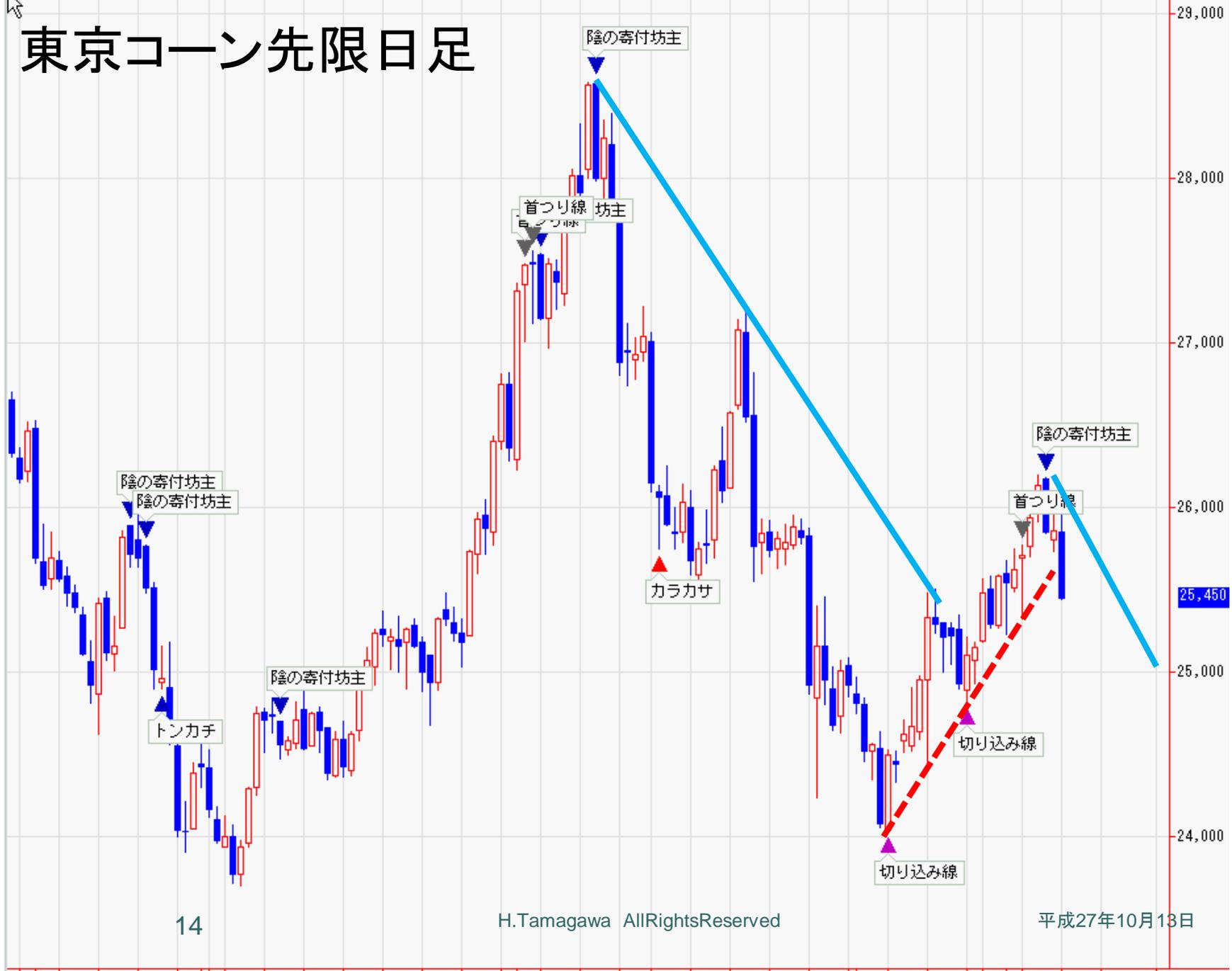




結論

- イールドが予想外に引き上げとなりましたが、収穫面積の引き下げが大きく、生産高は下方修正されました。1億Bu程度の生産高の下方修正が予想されていましたが、生産高は前月比-0.3億Buの135.55億Buと、予想平均を上回りました。イールドは168Buと予想平均166.4Buを上回りました。
- 米国新穀期末在庫は、15.61億Buと0.31億Buの下方修正となりましたが、予想平均14.98億Buを上回り、弱い数字となりました。旧穀の需要面は微調整がありましたが、新穀の需要面の数字は全て据え置きとなりました。
- 東京コーン先限も10/7の高値26200円が戻りいっばいで、収穫進展を受けてこれからハーベストプレッシャーが高まり、上値重い展開が続くものと思われます。

東京コーン先限日足





大豆 (SoyBean)

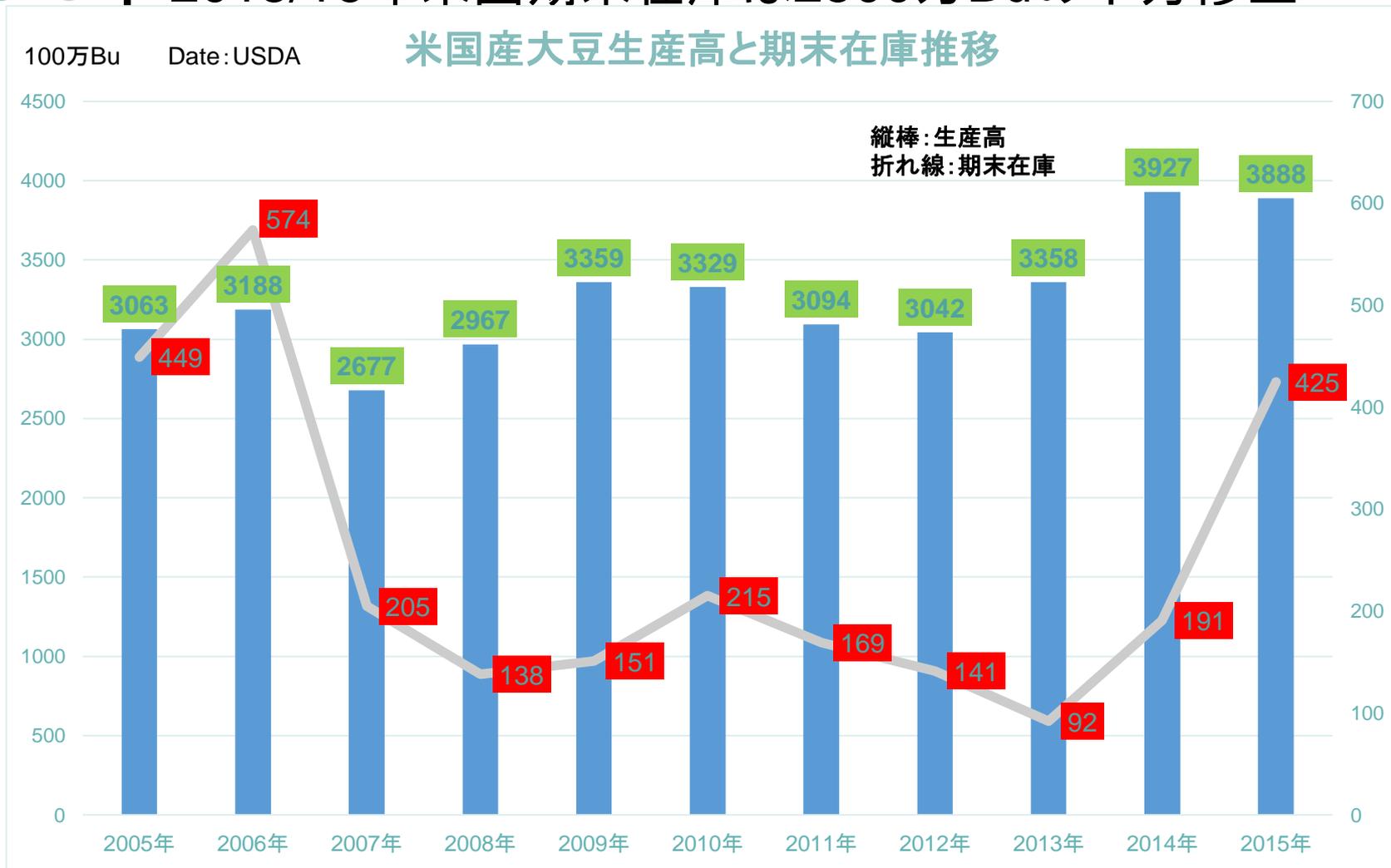
10/9発表USDA大豆需給報告

期末在庫は4億2500万Buに下方修正

2015／16年度

作付面積:	8320万エーカー	(8430万エーカー)
収穫面積:	8240万エーカー	(8350万エーカー)
単収	: 47.2Bu	(47.1Bu)
期初在庫:	1億9100万Bu	(2億1000万Bu)
生産	: 38億8800万Bu	(39億3500万Bu)
輸入	: 3000万Bu	(3000万Bu)
供給合計:	41億900万Bu	(41億7500万Bu)
圧砕	: 18億8000万Bu	(18億7000万Bu)
輸出	: 16億7500万Bu	(17億2500万Bu)
種子その他:	1億3000万Bu	(1億3000万Bu)
消費合計:	36億8500万Bu	(37億2500万Bu)
期末在庫:	4億2500万Bu	(4億5000万Bu)
在庫率	: 11.5%	(12.0%)

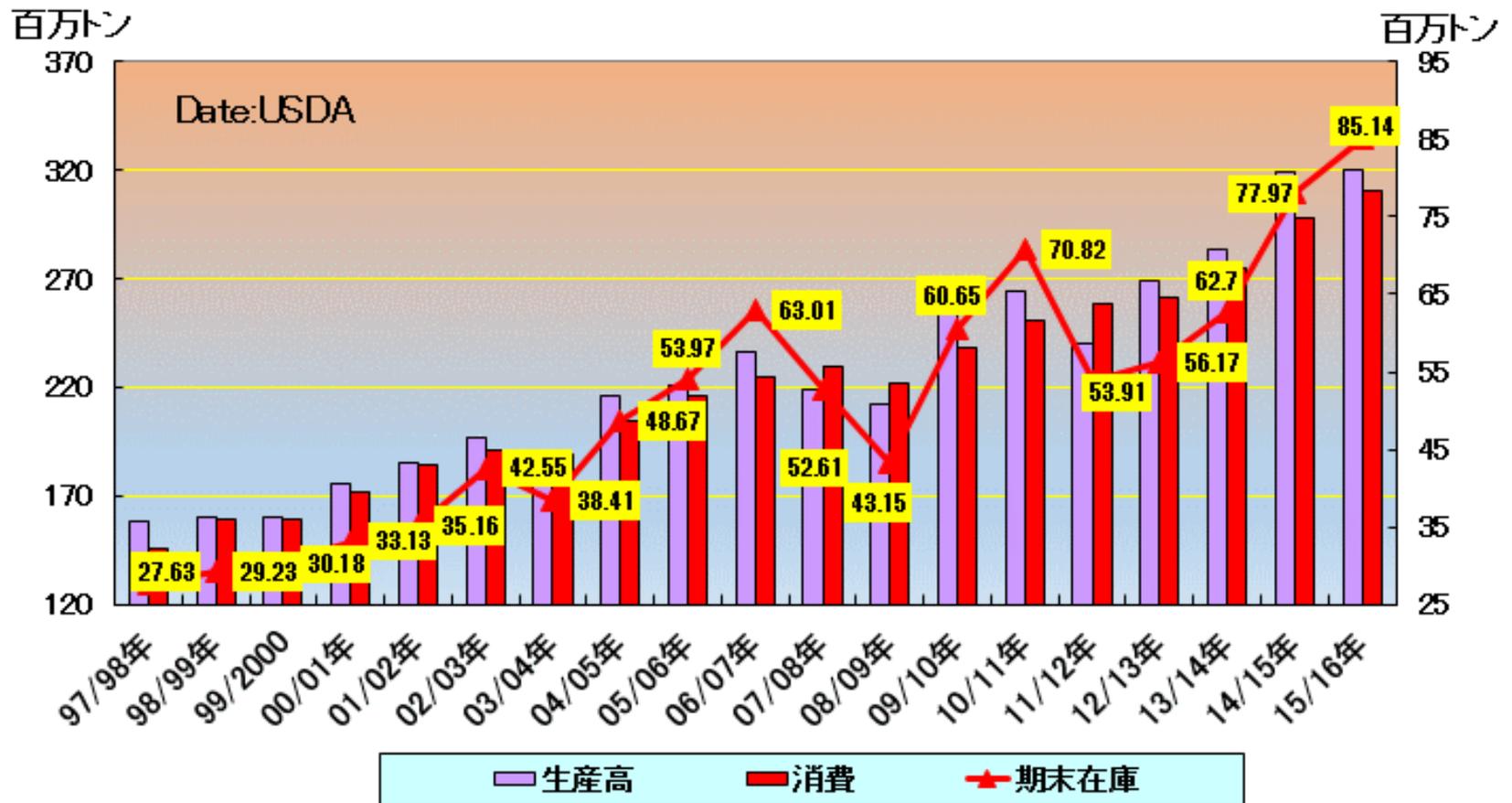
2015/16年米国期末在庫は2500万Buの下方修正



世界大豆需給推移

2015/16年世界期末在庫8514万トンと、前月からわずかな引き上げ。

世界大豆需給

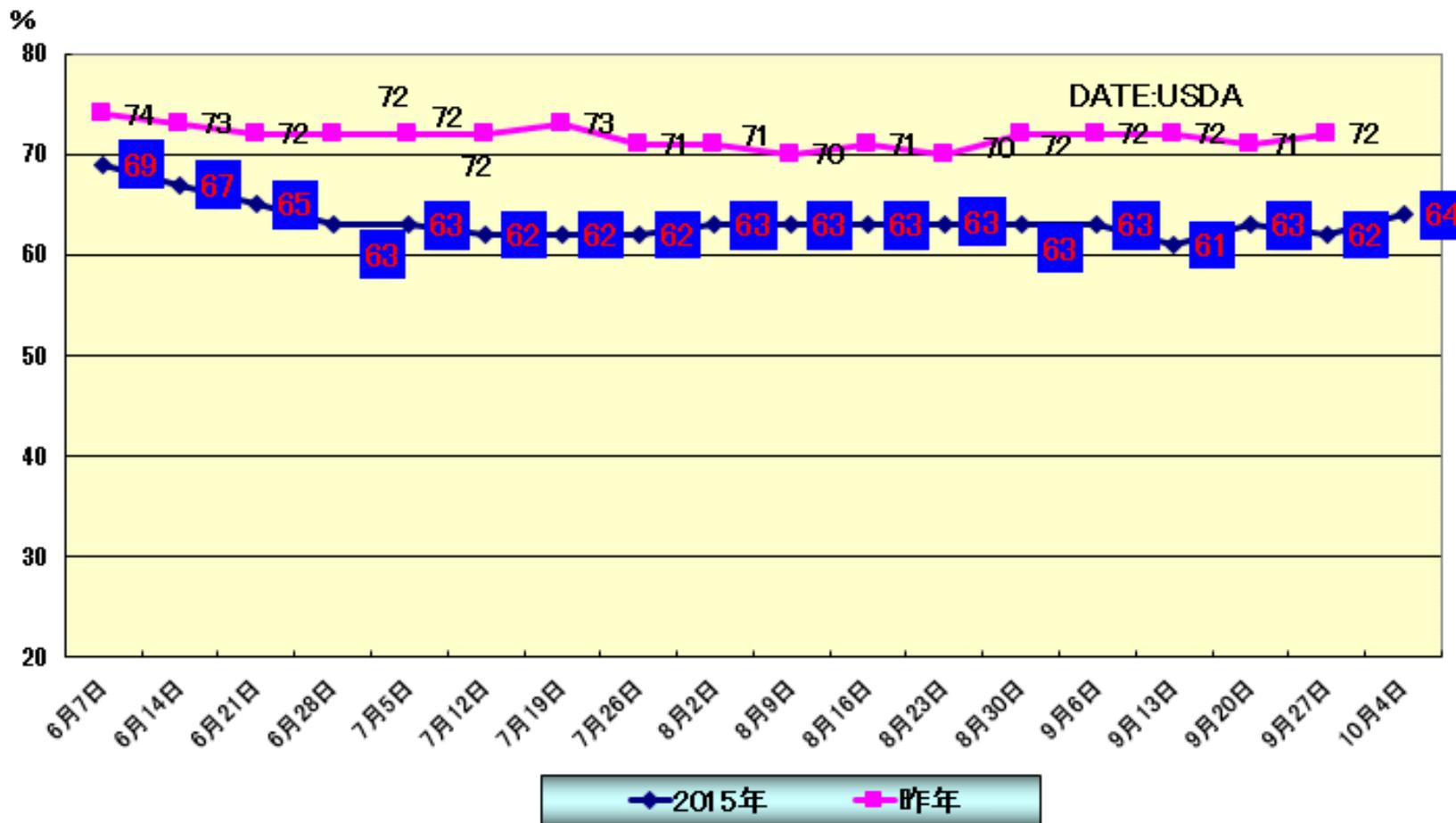


世界大豆需給

- 2014/15年度世界大豆生産見通しは3億1894万トンと、ブラジル生産高が+170万トン(9450→9620万トン)引き上げられる一方、インド、パラグアイが引き下げられ、前月から若干の下方修正となりました。2014/15年世界大豆期末在庫は、7797万トンと予想平均7830万トンを下回り、前月から76万トンの下方修正となりました。
- 2015/16年世界大豆生産高は3億2049万トンとインド、米国は引き下げとなりましたが、ブラジル生産高が+300万トン(9700万→1億トン)引き上げられ、88万トンの上方修正、2015/16年世界大豆期末在庫は、わずかに上方修正され、8514万トンとなり、予想平均8460万トンを上回りました。

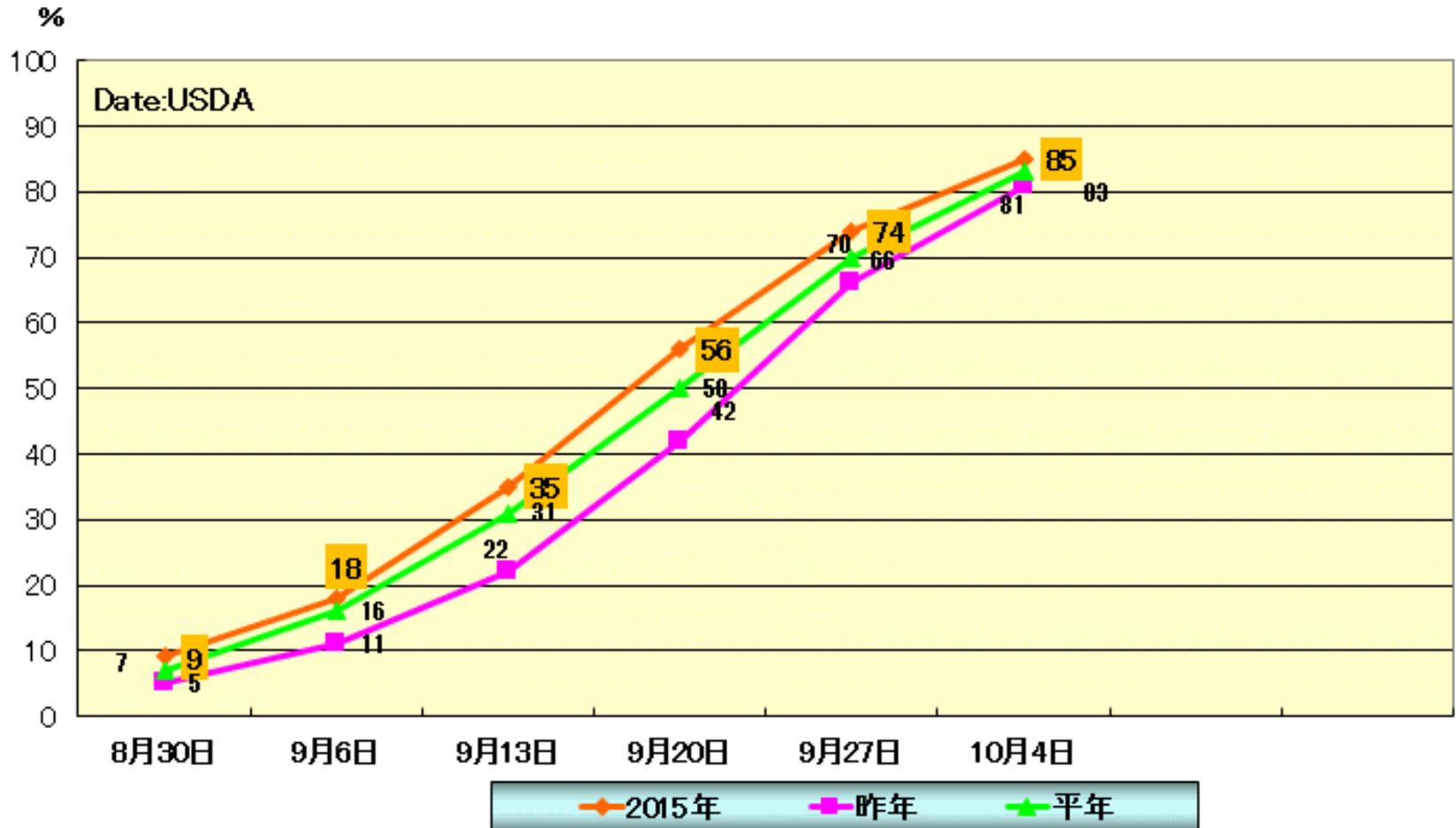
米国大豆作柄状況10/4時点優+良64%

2015年大豆作柄状況・主要18州優+良比率

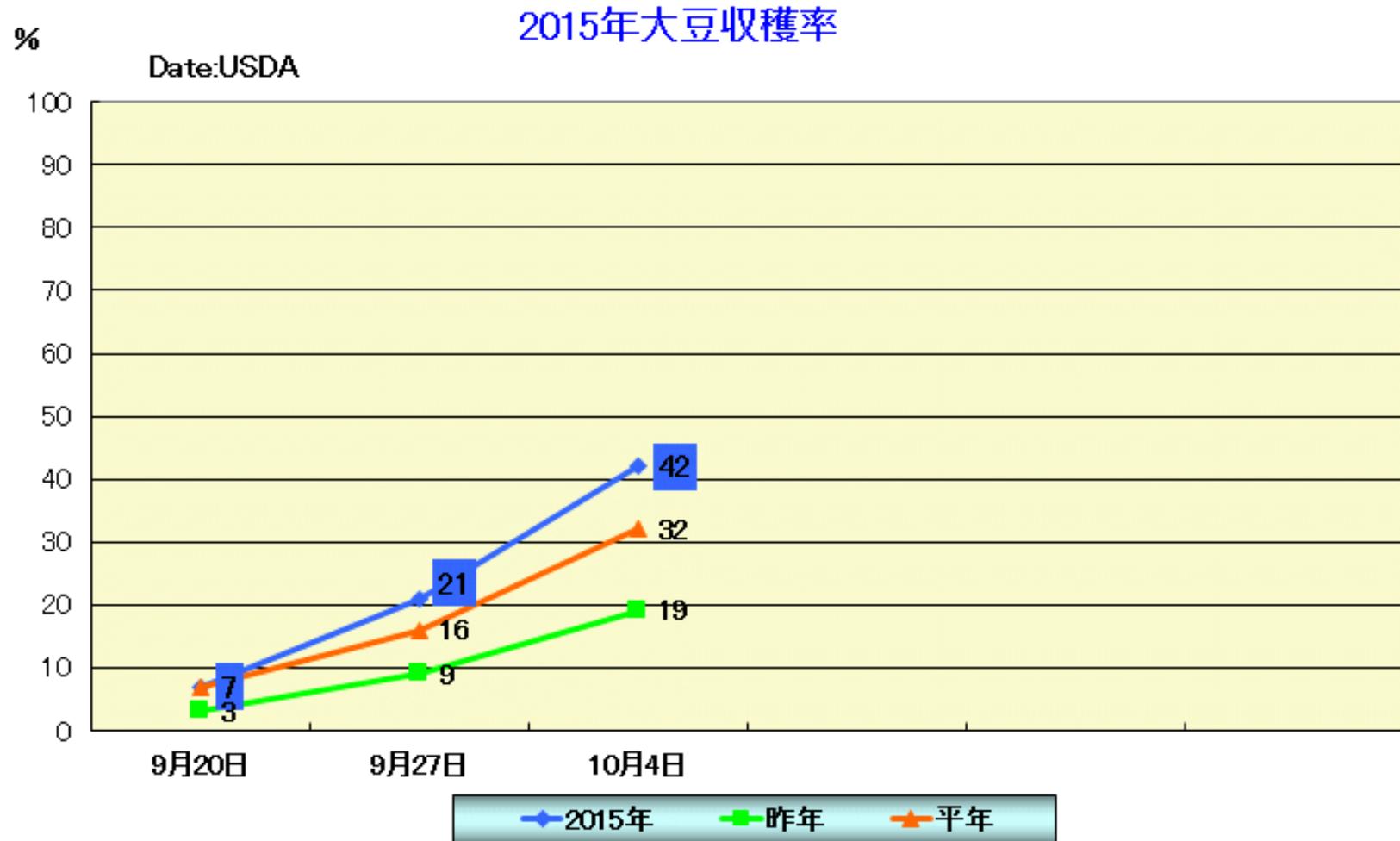


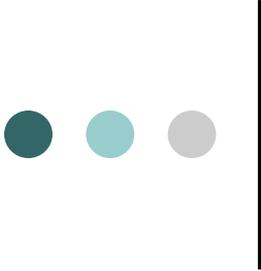
大豆落葉狀況10/4時点85%

大豆DroppingLeaves (落葉狀況)



大豆収穫率10/4時点42%と平年を上回る。



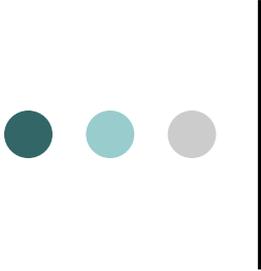


結論

- イールドは47.2Buと予想外に0.1Bu引き上げとなりましたが、収穫面積が8240万エーカーに前月から110万エーカー引き下げが大きく、大豆生産高は38.88億Bu(予想38.84億Bu)と前月から4700万Buの下方修正となりました。ただ輸出需要が5000万Bu引き下げられたことにより、結果新穀大豆期末在庫は4.25億Buに2500万Buの引き下げにとどまり、予想平均3.98億Buを上回りました。世界需給ではコーン同様ブラジル生産高が大幅上方修正となりましたが全体わずかな修正となりました。今回の需給報告は決定的な材料にならず、目先はレンジで外部環境次第の動きが続きそうです。東京一般大豆先限も8/25安値45400円で下値出尽くし、10月前半は5万円を伺う堅調な動きとなりましたが、収穫進展で上値も重く、目先は48000-50000円の持ち合いとなりそうです。
- 10/4現在のクローププログレスによると大豆収穫率42%(平年32%)、落葉率85%(平年83%)と平年並みに進捗している。作柄状況の優+良の比率も64%と生育に問題ない。

一般大豆先限日足





商品先物取引業者：岡安商事株式会社

【本店】

TEL:06-6222-0001 FAX:06-6203-7700

〒541-0041 大阪府大阪市中央区北浜2-3-8

【東京本部】

TEL:0120-342825 FAX:03-5641-1725

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町1-1-1

日本商品先物取引協会会員
経済産業省 平成22・12・22商第6号
農林水産省指令22総合第1351号

・お客様相談窓口

大阪本社管理部

TEL:0120-346-492

東京統括店管理部

TEL:0120-182-461

・商品先物取引苦情相談センター

日本商品先物取引協会(東京)

TEL:03-3664-6243



- ・当社の企業情報は、当社本支店及び日本商品先物取引協会またはそれぞれのホームページで開示されています。
- ・商品先物取引は委託に際して委託者証拠金の預託が必要になります。最初に預託する委託者証拠金の額は商品により異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高130,000円、最低9,600円です。但し、その後の相場の変動によって追加の預託が必要になることがありますので、注意が必要です。また、その額は、商品や相場の変動によって異なり、一様ではありません。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高1,150,000円が必要となります。
- ・商品先物取引による取引の額は、最初に預託する委託者証拠金の額に比べて著しく大きい額となります。具体的には、商品によっても異なりますが、対面通常取引の場合は委託者証拠金の額の約15倍から約45倍、対面損失限定取引(スマートCX)の場合は委託者証拠金の額の約2倍から約8倍の額にもなります。
- ・商品先物取引は、相場の変動によって利益も損失も生ずるおそれのある取引です。また、委託者証拠金の額に比べて何十倍もの金額の取引を行うため、その利益や損失も預託している委託者証拠金等の額に比べると高いものとなることがあります。
- ・商品先物取引の委託には委託手数料がかかります。その額は商品によって異なりますが、最低取引単位(1枚)当り最高8,100円、最低540円(片道税込み)です。
損失限定取引(スマートCX)は通常の商品先物取引とは異なり、最低取引単位(1枚)当り最高12,150円、最低1,555円(片道税込み)が必要となります。(平成27年10月1日現在)